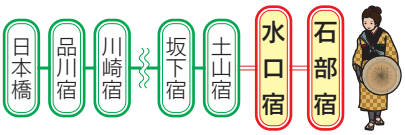
第41回 街道



東海道五十三次の内

水口宿～石部宿まで歩く

ＹＵＭＥ追い人

土山宿から水口宿へ入る。今日は2018年９月８日㈯。天気晴れで歩き日和。

水口宿の東見附にある冠木門の様な所をくぐると、ここから水口宿になる。

水口宿入り口のモニュメント

本陣跡、脇本陣跡も石碑のみで、道路脇にぽつんと石碑が立っている。高札場跡を見て「三筋の街」の角に江戸時代に作ったと思われる大きな古い時計があり、ハイカラな所である。本陣は代々鵜飼伝左衛門家と儀峨彦之丞家が勤めたという。本陣の建物は明治時代に無くなったが、脇本陣は一部が現存している。

水口宿　高札場

「三筋の街」の角にある大きな古い時計

大岡寺（だいこうじ）に着く。大岡寺は「岡観音」とも言われ、行基が白鳳14年（684年）大岡山に庵を建て、木造の千手観音を安置したのが始まりで、幾度か戦火に合い、現在の建物は、正徳五年（1715年）に再建され、近江西国霊場三十三カ所巡りの寺として有名との事。

水口宿の街道にある「旧水口図書館」と、街道より奥に入った「水口キリスト教会」はヴォーリズの設計。戦前における最盛期の作品と言われ、簡素でありながら高い実用性に優れている事に特徴があるという。旧水口図書館は平成13年に国の「登録文化財建造物」として登録されている。

この町は山車を収納するノッポな建物が、東海道の町中を歩いて見るだけで９棟ある。山車があるという事はお祭りが盛んだと言う事だ。ウォークリーダーの話で「曳山の館」では、「水口曳山祭り」で実際に巡行する「二層露天式人形屋台」の構造を持つ曳山を展示しているとの事。この町には山車が14基あるらしい。山車には興味があるので全部の「山車」を見たい。東海道沿いより南にある「水口神社」では４月19日と20日に「水口曳山祭り」が行われ、華やかな曳山巡行と、「江戸神田囃子」の流れをくむと言われる「水口囃子」が聞けるという。

大きな高い建物の中に山車が入っている

水口宿では「カラクリ時計」の建ててある所が２か所あり、その内の１箇所でカラクリの動く時間が来るのを待つ。機械で動くカラクリは江戸時代によく作った物だと感心しつつ注目する。「東芝」の創始者はカラクリが得意だったと聞く。

甲賀水口地域市民センター入り口

水口歴史民俗資料館にはこの地の古い道具、機械、生活用品、祭りに関する物全般が展示されている。

「甲賀水口地域市民センター」に寄る。広い敷地の中に、水口曳山祭りに出る山車が収められている高い建物がある。別棟で建てられているもので入口の扉が大きいのでびっくりする。水口宿には「見るもの、聞くもの」がたくさんあり、興味深い宿場町だ。

窓枠のシックイに職人魂が見られる

京に向かって歩く。

「百間長屋跡」に着く。「百間（約182m）の棟割長屋に下級武士達が隣り合って住んでいました」との説明板がある。

『場内を防御するために、東海道側には小さい窓だけで入口が無く、街道とは自由に行き来する事ができませんでした。敵が攻めてきた時に郭内の城、藩邸を守る役割だったようです。街道側の小さい高窓は、食料など買い物時に高窓からひもを吊るして買ったようです』とウォークリーダー（随行案内人）の説明を受ける。

藩邸の為に、厳しい生活を送る様になっていたのだと思う。

真徳寺武家屋敷門を通り、五十鈴神社へ着く。ここが本日のゴール地点である。17.7㎞歩く。今日は良く歩いた。

五十鈴神社入り口

夕食は信楽高原鐵道の信楽駅近くにある「焼肉一水庵」に行き、美味しい豪華な焼肉料理をいただく。アルコールが好きな方は日本酒、ビールを飲み、大いに盛り上がる。今日は皆疲れている様子だ。

信楽駅に立つ陶器製の大きな「タヌキ」

夕食後、自由時間があったので信楽駅に行ってみる。駅入り口には有名な陶器製の大きな「タヌキ」が立っている。信楽焼の産地だけあって駅前では遅い時間にも関わらず陶器店が開いている。

バスで「ホテルルートイン甲賀水口」へ行き、シャワーを浴び、明日の天気予報を見てベットに入る。

2018年９月９日㈰　ホテルの駐車場に待っているバスに乗り、昨日少々見たり聞いたりした「五十鈴神社」へ行く。駐車場でいつもの様に、歩く時の注意事項、本日の名所旧跡、準備運動などをして神社に入る。

五十鈴神社は近世には「神明社」と称し、境内の東側に江戸から113番目の「林口の一里塚」があり、西へ進むと水口宿の「西の見附」となる。

五十鈴神社
西側にある「林口の一里塚」

この神社の「由緒書き」によると『五十鈴神社は「天照大御神」をお祀りしています。藤原時代の長寛二年（1164年）に設けられた「御厨」制度により御厨田の守護神として、また五穀豊穣の神として伊勢皇大神の御分霊を、福原大神宮として称え奉ったのがその創始です。江戸時代の天和二年（1682年）から水口城主として加藤明友候が政治を行った間「神明宮」と称して信仰も厚く御影石、手洗鉢の寄進をされています。その後の歴代藩主の信仰も厚く、由緒深いお宮です。明治四年（1871年）「五十鈴神社」と改称されました。その他に、稲荷、八坂、愛宕、弁財天の神社をお祀りしております』と書いてある。

このお宮の敷地は大きく、色々な神を祀ってある由緒ある神社なのだと思う。

「美冨久酒造」入り口

西へ向かう。

東海道五十三次沿いに「美冨久酒造」と言う酒蔵があり、その酒蔵の中に入る。酒槽（さかふね）と言うお酒のもろみを造る時に使う木製の機械や、酒を造る時の道具を展示してある由緒ある酒蔵だ。「東海道水口宿　近江の地酒　美冨久」と書いた暖簾が江戸時代以前から続く歴史を感じさせる。酒好きの人はここで酒を購入する。宅急便で家まで大量に送る人もいた。手に持たず家に帰った頃に酒が家に着く。

美冨久酒造「酒蔵」

「北脇畷（きたわきなわて）と松並木」と言う石碑の所に彫ってある説明文を見て、西に向かい、泉の集落に入る。道路わきにぽつんとこの石碑のみ立っている珍しい所だ。

北脇畷と松並木の石碑

国宝延命地蔵尊「泉福寺」に着く、お地蔵様とお不動様を祀ってある天台宗のお寺で、ここも由緒ありそうだ。案内板と並んで信楽焼のタヌキが立っている。ここにもタヌキとは滑稽な風景だ。泉福寺には日本一の「木彫曼荼羅」と板襖絵の「釈迦聖地巡礼図」があるという事だが見学は出来ず、庭にある檸の大樹を遠くから見るのみだった。

泉福寺の案内版横に信楽焼のタヌキが立っている

「横田渡」に着く。

ウォークリーダー（随行案内人）の方に「横田渡」について説明をしていただく。

『鈴鹿山脈に源を発する野州川はこのあたりで横田川と呼ばれてきました。伊勢参宮や東国へ向かう旅人はこの川を渡らねばならず、室町時代の資料にも「横田川橋」の名が見えてきます。江戸時代に入り東海道が整備され、当所は「東海道十三渡し」の一つ、として重

東海道「横田渡」

視され、軍事的な意味からも幕府管轄下に置かれました。そのため他の渡しと同じく通年の架橋は許されず、地元泉村に「渡し」に公役を命じ、賃銭を徴収してその維持に当たらせました。それによると３月から９月の間は４隻の船による舟渡しとし、10月から翌２月までは流路の部分に土橋を架けて通行させた様です。「野州川」と、支流の「杣川（そまがわ）」が合流する当地は、水流も激しく、また流れの中には巨石も顔を見せ、道中の難所に数えられました。当時のガイドブックである「名所図会」や「絵図」にも多数描かれており、旅人で大いに賑わいました。』

当時はここに川高札、川会所も設置されていた様だ。

ここには大きな石製の「常夜燈」があり、大きな門の横に案内板がある。水口宿に京都方面から入ると立派な宿場の入り口に見える。

大きな常夜燈は文政５年増加する旅人の目印になる様に泉側の川岸に、地元や京都、大阪を中心とした「万人講中」の寄進によって立てられ、その高さは10.5m、火袋は大人でも通れるほどで、道中でも最大級のものとされているという。基壇には多くの寄進者名が刻まれていた。「明治時代以降水害によって一部形状を損ないましたが、その交通史上の価値は高く水口町の文化財に指定されています」とウォークリーダーの説明。

泉川原橋を渡り、滋賀県湖南市に入る。ここから石部宿になる。横田渡し跡の対岸に来ると、ここにも大きな常夜燈がある。「石部宿　横田の常夜燈」である。安永八年（1774年）に建てられた火袋付の常夜燈で、高さ4.85m、５段の石積の上に立っている。建立された当時は現在地よりも200ｍ程上流に立っていたがいつの時代か現在地に移転されたという。「水口宿の常夜燈より50年以上も前に建てられた」と、湖南市観光協会が建てた立て看板を見る。常夜燈では珍しい切妻の屋根で、火袋に何か貼ってあり中は見えない。棹部分に「常夜燈」と彫ってある。

石部宿「横田の常夜灯」

ここまで来たのだからと、ウォークリーダーに山側の一段上がった所にある「天保義民の碑」に案内して戴く。天保十三年（1842年）代官の過酷な検知に反抗して犠牲になった村役人達に対する慰霊碑で、高い大きな石碑を見る。

ＪＲ三雲駅を通り、「猿飛佐助のふるさと三雲城」と言う横断幕がフェンスに掲げてある所に来る。「真田十勇士」に出てくる猿飛佐助がここで生まれたのだと知る。猿飛佐助は真田家に仕えた忍者で、小生が小さい頃「猿飛佐助」の真似をするのは「月光仮面」と同じく、遊び仲間のヒーローだったのを思い出す。

ここから東海道は野洲川左岸を進む、途中大砂川や由良谷川は天井川になっていて川の下を通る。石部宿に着き、ウォークリーダーの説明を聞く。

『石部宿は滋賀県湖南市にあり、江戸日本橋より115里14町、約453.1㎞あります。次宿の草津宿まで２里25町で約10.6㎞ある宿場町です。町並み東西15町３間で、家数458軒あり、その内本陣２軒、脇本陣はありません、旅籠32軒ありました。人口は女性798人、男性808人で合計1,606人でした。

石部宿には江戸時代の宿場関係の建物は残っておりません。高札場や問屋場、小島本陣跡の説明板があるのみで、ここへ来る前の水口宿、その前の土山宿、坂下宿、関宿、などは宿場関係の建物、それに関する資料館等があるのですが、ここ石部宿は案内板や石碑のみです。小島本陣のあった周辺が石部宿の中心になります。石部宿には、日本橋から116里目の石部一里塚があります』

今日は石部宿がゴールである。

手足、腰等の整理運動をしてバスに入り、バス中でお品書きの付いた「みらい屋」の美味しいお弁当をいただく。

その後バスは東名高速道路を走り、一路長野に向かう。バス中ではおやつを食べる人、おしゃべりをする人、疲れて寝る人、様々である。大型バス２台で、南信方面の方と山梨県の方は２号車。東北信、中信の方が１号車で、来た時と逆の各箇所で下車され、別れを惜しむ。長野に着いたのは22時過ぎで、今回の二泊三日の工程が無事終わった。

次回（石部宿～草津宿）に続く